

今村復興大臣岩手県訪問ぶら下がり会見録  
(平成28年9月15日(木) 15:20-15:25 於) 岩手県宮古市役所新里総合事務所前)

1. 発言要旨

今日は大船渡から釜石を通過してずっとこちらに来たところであり、それぞれにいろんな歩みで、我々も大変勉強になりました。釜石では、「泳ぐホタテ」ということで地域の特徴を生かした生業をしっかりとやっておられるなということ、そして非常に、なんて言うんですかね、販売戦略もうまくやっておられるなど。これは、被災地はもちろん、日本のこういった地域の水産業の今後の大きな柱になるんじゃないかな。IT化の時代も含めて、そういう感じがして、とにかく頑張ってもらいたいなという思いを強くしたところでもあります。

その後、いろんな区画整理事業等々行ってまいりました。それぞれに優先順位と言いますか、例えば道路を最初にやって、そしていろんな復興資材等を持っていくと、そういう戦略でやってこられたところもありますから、若干進み具合に早い遅いがあるかと思いますが、非常に軌道に乗ってきたなという感じがしております。

そして、そういう中でこれはもう時間との勝負でもありますけれども、復興した後の町並みについて、「見える化」をする。そうすると、また皆様方も「あ、これならいいな」、「ここに住もうよ」という気持ちにもなるんじゃないかなというふうに思います。

もっと言えば、これは私の考えですけれども、最近いわゆるバーチャルリアリティという言葉がありますが、ああいうものを使って、この町が出来上がったときにはこんな感じになるよということを、もっと実感できるような仕組みと言いますか、そういったものを作るのもいいんじゃないかなと思います。

とにかく、自分たちの大事なふるさとですから、是非そういう強い思いを持って故郷に残るんだと、これからまた立派に子供たちにこの町を残していくんだという強い思いを持ってもらうということが、本当にこれからの大きな力になるんじゃないかなというふうに思ったところでもあります。

そして、山田の方でも聞きましたが、あそこの皆様方が本当に寄り添って良いコミュニティーをつくっていただいて、この5年間をしのいでこられた。そして、徐々にいろんな住宅ができ、公営住宅等もできた中でそれぞれに皆さんが散って行かれる。今後そういう中でこのコミュニティーをどうやって維持していくかということも大きな課題ではありますが、やはりこの5年間、正に同じ

釜の飯と言ったら失礼でありますけれども、同じ屋根の下で暮らされた、そういった一つのつながり、心の絆というものの、これは何のものにも代え難い財産でありますから、そういった気持ちを持って、これからもみんな心を一つにして何かあればまた集まって、あるいは散らばっていても何かあったときには力を合わせてやっていこうよということをして是非やっていただきたいと思います。

また、皆様も言うておられました、心のふれあいと言いますか、そういったコミュニティーをどうやってこういう大変な目に遭ったときにしていくかということ、最初は随分苦勞されたみたいですが、そういったことは今後いろんな面で今後の被災地の参考になるんじゃないかなというふうに思っております。そこでも話に出たんです。こういった自分たちの経験といったものを、最初は大変だった、トイレ一つにしても小学校のトイレを使わなきゃいけなかった、そういう本当に胸に迫る話もされておりましたが、そういった経験等々を是非後世に伝えてくださいということをおっしゃったので、我々も是非皆様方のお話をしっかりとまとめて、そういったことをやっていこうじゃないかと述べたところでもあります。

それから、宮古の方の魚市場に行きましたが、これも新しく大変近代的な魚市場ができておまして、しかも衛生管理が非常に行き届いているというようなこともありますので、そういったものはこれからのいろんなビジネスを繰り出していくのに大変重要な要素であると思いますので、そしてまたそういうことを売りにして、安全、安心、それでうまいと、そういうことを売りにして、これからの市場奪還を目指してやっていただきたいというふうに思ったところでもあります。

そして、今日こちらに来まして、改めてこの（台風）災害のひどさというものを、途中をずっと見ながらも思っていたわけでありまして、この地方は、非常に山が深いですから、岩泉もそうでありますけれども、大きな雨が降るとそれだけどんと集まってきて、そして一気に流れていく、そういう構造的な問題がありますので、今後もそういった気象情報等々を正確に掴んで、そして避難のさせ方の在り方というのをも改めて、先程言ったような、いろんな経験を積んでいるわけですから、今後、避難の仕方等についても生かしていく大きな参考になるんじゃないかなと思われました。

そしてまた、具体的な復旧については、明日の閣議で確か激甚の指定ということが、今までの分まとめてと言いますか、やるはずですから、そういったことにこの地区の分も是非入れていきたいというふうに思っております。これは、私からもお願いしていききたいということでもあります。

以上です。

## 2. 質疑応答

(問) 今日、山田の仮設住宅でも住民の方たちから様々な要望が出ましたけれども、そういう要望に対してはどのように対応しますか。

(答) 大変参考になりましたし、大事なことでありますから、是非我々もそれをしっかり受け止めて、できるだけ寄り添って、しっかり応えていきたいというふうに思っております。

(問) 復興大臣になられてから、釜石から宮古までを視察するのは初めてだと思うんですけども、もう一度今日全部見ての所感をお願いします。

(答) 2年前に一回、決算行政監視委員会の方でこの辺には来ているんですよ。だから、あれからすると、随分立ち上がってきたなという感じがしていますね。だから、これからは正に加速度的にいろんなものが立ち上がっていくということで、急ピッチで進んでいくというふうに期待しています。

(問) 先程、三重ローンという話も出てきたと思うんですけども、東日本大震災の被災者の方々が今回も被災して、家財までなくなってしまっている。その辺りの支援の在り方とか、どういうふうにお考えになっていらっしゃるか。

(答) それはもう少し個別にどういう事由なのかをよく聞いてどうするか考えないと、ちょっと一概には言えないと思います。もう少し具体的なお話を伺いたいと思います。

(問) 台風10号の被害で、改めてということになるかもしれませんが、復興事業の途中でまた被災してしまったところについては、復興予算というのには付ける場合もあり得るのでしょうか。

(答) そうですね。その辺はよく見ながら当然対応いたします。どうしてもオーバーラップするものもありますから。

(問) 今日は釜石の方でワールドカップのスタジアムの予定地等を視察され、遠くから説明を受けられたかと思うんですけども、釜石市としては鶴住居地区を、ラグビーの会場を中心に復興の起爆剤のような形にしていきたいというような説明もあったかと思いますが、その辺復興庁としてはどのように今後支援していこうとお考えでしょうか。

(答) 非常にいいことではないかと思えますね。私は初めて聞いたんですが、この三陸でああいうきちんとした施設がなかった、今回初めてだということも言っておられましたし、ちょうど大きさも手頃じゃないかと思えますよ。あれだったらライブをやったりとか、何とかできるしね。いろんな使い方がこれからできると思

ます。

そしてまた、道路も着々と今、三陸の方も進んでいますし、比較的アクセスはよくなるはずですから、いろんな催し物をしていただければ、地域の盛り上げに大いに役立つと思っています。

(以 上)